

自治体名	群馬県
------	-----

女性の健康支援対策の概要

本県の女性は、年々子宮頸がんによる死亡者数が増加し、がん検診についても低い受診率が続いていることから、県民それぞれが自らの健康に関心を持ち、がんの予防やがん検診を受けるといった適切な健康行動がとれるように支援することが必要である。

このことから、本県では、女性特有の疾患や年齢によって罹りやすい疾患を考慮し、女性の生涯を通じた健康づくりを推進するため、若い女性を対象とした健康教育及び幅広い年齢層の女性に向けた女性特有のがん予防の普及啓発を実施する。

自治体の特徴

本県は、日本列島のほぼ中央にあって、県西・県北の県境には山々が連なり、南東部には関東平野が開ける内陸県である。本県の自動車保有台数は全国的に高い割合で、また、女性の免許取得率も全国一位であり、交通手段は自家用車の利用が高い地域である。

人口構成・(H21.10.1 現在)

割合(%)	100	49.17	50.83
15歳未満	281,571	144,062	137,509
15～64歳	1,260,652	642,273	618,379
65歳以上	465,257	200,726	264,531
75歳以上	227,686	86,782	140,904
85歳以上	62,731	17,352	45,379

女性に関する健康課題

・群馬県児童生徒の食生活等実態調査結果報告（H21.3）によると、「正常な」体格の中学生、高校生であっても「痩せたいと思って（ダイエットを）実行したことがある」とする割合は、中学生26.4%、高校生39.5%となっている。

・平成19年度の老人保健・地域保健事業報告では、本県の女性特有のがん検診は、乳がん22.8%、子宮がん23.4%と低い受診率であり、数年同様な傾向を示している。特に若い女性の子宮頸がん検診の受診率は極めて低い結果である。（全受診者の5%）

以上のことから、若い女性の不健康なやせへの取り組みや女性特有のがん予防とがん検診受診率向上が課題である。

事業費（千円）

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業	35
(2) 中高年期における健康支援事業	2,475
(3) 女性のがん支援事業	2,767
計	5,277

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業

事業名	子宮頸がん予防啓発講演会
分野	■健康教育 □健康手帳の交付 □健康相談
事業費（千円）	35

事業目的

若い女性それぞれが、子宮頸がんの知識や女性ホルモンの変化によって引き起こされる健康課題についての関心を持ち主体的に予防行動がとれるよう、若い女性が多く在籍している大学・専門学校等に講師を派遣し、子宮頸がん予防講演会を開催する。

事業対象

県内の大学・専門学校に在籍している学生

事業実施体制・展開

①□当学校、講師の選定

県内の大学・専門学校で、若い女性が多く在籍している学校を選定する。また、その学校の地理的条件から派遣可能な講師（産婦人科医師）を選定する。

②受入れ学校へ依頼、講師派遣依頼

学校には当講演会の概要を説明し、受入れが可能となった後、日程や開催場所等の打ち合わせを行い、依頼書を送付する。また、講師についても依頼書を送付する。

③講義内容は以下の通り。

不健康な痩せ予防、女性ホルモンの働きと障害、子宮頸がんの原因と治療、子宮頸がん予防とHPVワクチン

④受講者にアンケート実施

受講者に当講演会の理解度とその効果についてアンケートを実施する。

事業目標・評価項目 及び その結果

受講者アンケート結果より

- | | |
|----------------------|------------------------------------|
| ①子宮がん検診該当年齢の認知 | 該当年齢知っている（受講前）80名→（受講後）211名 |
| ②不健康なやせの影響の理解できた | 「とてもそう思う」「ややそう思う」 210/219名 |
| ③子宮頸がん予防の理解できた | 「とてもそう思う」「ややそう思う」 214/218名 |
| ④講演会の満足度 講演会は参考になったか | 「とても参考になった」「やや参考になった」 210/214名 |
| ⑤がん検診の意欲 | がん検診の必要性「とてもそう思う」「ややそう思う」 201/219名 |
| ⑥講演会の波及効果 | 「周りの人にがん予防について伝えたい」 52人/219人 |

事業の工夫点

- ・群馬県は、20代の子宮頸がん検診受診率が、他の年代に比べ低い。若い頃よりがん予防や健康に対する理解をもってもらうため、県内の大学・専門学校等若い女性が多く在籍している所と連携し企画した。
- ・子宮頸がんは男女の重要な課題であることを学習してもらうため、男性の学生の参加も積極的に促した。
- ・がん検診の受診率向上にむけ、講演受講者から、家族や周囲へ普及するように、アンケート項目の中に「家族や友人にがん検診を受けてもらいたいと思いませんか」「今回の講演会を聴いて、子宮頸がん予防について大切なご家族やお友達にどんなことを教えてあげたいと思いますか」という項目を設定した。

事業の効果についての評価・考察

企画調査委員会にて本事業の効果について検討した。

- ①県内の産婦人科医会が受ける地域に出向いての講演会は小中高校までのため、それ以上の年齢層へ性に係る教育の機会は少ない。特に子宮頸がんの場合HPV感染による発生が言われており、HPV感染の要因でもある性行為等の経験者の増加する年代を対象とした点は意義があると思われる。
- ②今回の講演会は男性の参加者も多く（89名）、アンケートでは「検診を定期的に受けて欲しい」「早期発見が大事である」「今回の資料と一緒に検診をすすめる」「相手に対して思いやりを持ちたい」等の意見があった。子宮頸がん予防は女性だけの問題ではなく、男女の問題として捉えてもらうことができたと思われる。
- ③参加者のアンケート結果から、講義内容は充分理解されており、その学んだことを大切な家族や友人に伝えたいと回答した者も多く、参加者を通じて子宮頸がん予防の波及効果も期待出来る。
- ④今回は、1回のみで開催のため、群馬県全体で考えると対象は少なかったが、参加者には検診や定期受診の必要性等理解してもらえたと思われる。今後は開催地域や開催回数の増加に向けて検討する必要がある。

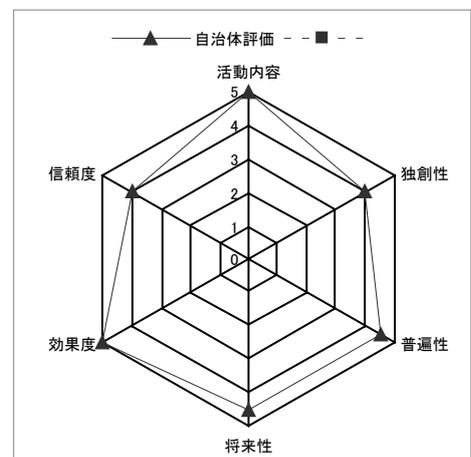
今後の課題

講演会実施回数と開催地域の検討

今回は、実施回数が1回であり、開催地域も前橋市内とした。県下全域の学生にアプローチができるように、回数と地域の検討が必要である。

ホームページ	平成22年度に総合的ながん対策についてHPに掲載予定のため準備中
照会先	群馬県 健康福祉部 保健予防課 生活習慣病対策係 027-226-2602

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	5	若い女性を対象とした地域の学校に出向いての講演会であり、評価できる。
②独創性	4	既存の事業であるが、内容を充実させ男子学生への積極的な参加を促した点で工夫がみられる
③普遍性	4.5	派遣の講師と受入れ学校等、実施要件が揃えば、広く全国で実施可能である。
④将来性	4.5	医師と学校の協力により今後も実施可能。また対象年齢を変えての実施も可能。
⑤効果度	5	受講した学生の9割以上ががん検診を受診したいと回答し、意識の変化がみられる。
⑥信頼度	4	アンケート結果から信頼性に足りる。ただし、行動変容に至ったかの評価ができていない。



(2) 中高年期における健康支援事業

事業名	新聞記事掲載
分野	<input checked="" type="checkbox"/> 知識の提供 <input type="checkbox"/> 健康相談 <input checked="" type="checkbox"/> 情報提供
事業費（千円）	2, 475

事業目的

県民が女性の生涯を通じた健康、特にがんに対する関心をもてるよう、ライフステージによって異なる健康課題の予防、その対処法、女性特有のがんの現状、早期発見・治療の必要性等を新聞紙上に特集記事を掲載し、普及啓発をはかる。

事業対象

一般県民（群馬県内の乳がん検診受診率は横ばい状態であり、また年代別乳がん検診受診者数では、仕事や育児等の役割を担う45～49歳が少ない傾向である。新聞により広く一般県民が情報を得る機会となるため、家族からの波及効果を期待できる）

事業実施体制・展開

- ①新聞社を選定（県内最大発行部数である地方新聞社を活用）
- ②新聞社と委託契約をする。（委託内容は、新聞記事掲載と映画上映会開催を含む。）
- ③新聞記事掲載や映画上映会の日程や内容を決定する。（新聞記事掲載日：1月31日（日））
- ④女性特有のがん予防に関する新聞記事掲載。紙面上の構成は、地元タレントを登用し、乳がん子宮がんの専門医へインタビューを行う形式とした。また、内容は以下の通り。
女性特有のがん（乳がん、子宮がん）の現状と課題、女性特有のがんの症状と治療方法、がん検診について、子宮頸がん予防ワクチンの紹介、マンモセルフチェックの方法、患者の体験談、市町村がん検診担当連絡先
- ⑤映画上映会にて、新聞掲載にあるマンモセルフチェックの記事を見ながら参加者と共に演習（デモンストレーション）を行う。

事業目標・評価項目 及び その結果

- | | |
|---|-----------------------------|
| ①普及啓発のための新聞記事配布数 | 31万（新聞社発行部数） |
| <u>映画上映会参加者のアンケート結果より</u> | |
| ②記事を既に読んでいた | 104名/252名 |
| ③新聞記事の効果 | 「参考になった」「やや参考になった」196名/252名 |
| ④がん検診の必要性を感じた | 179名/205名女性 |
| ⑤マンモセルフチェックの継続の意欲「今後は定期的に乳がんセルフチェック実行できる」 | 170名/205名女性 |

事業の工夫点

- ・群馬県出身のタレントを起用し、座談会形式の記事の構成にすることで、広い年齢層に記事を読んでもらえるように配慮した。
- ・映画上映会にて、掲載新聞を配布することで、記事を読んでいない人に対しても啓発をすることが出来た。
- ・身近にある素材として、今回の新聞をパンフレットとして活用し、映画上映会にて、新聞に掲載しているマンモセルフチェックの方法を見ながら参加者と共に演習を行った。
- ・新聞記事掲載と映画上映会を組み合わせることで、連続して、一貫したがん検診普及啓発の情報を発信する。

事業の効果についての評価・考察

企画調査委員会において本事業の効果について検討した。

- ・がん検診の普及啓発において新聞紙の活用は、広く県民に啓発する媒体として有効である。加えて、映画上映会後の参加者の声を新聞に掲載したが、その記事の内容は「守らなければならない人が沢山いることを理解して、自分のためだけでなく周囲の人たちのために自分の体を守るべきだと思います」「頭で検診が大切なのは分かっていますが、怖いという気持ちばかりが大きくて一度も行っていない。上映会参加をきっかけに検診を受けようと思いました」等参加者の思いが語られており、とても印象的であった。住民の視点での検診に対する思いの掲載記事は、共感できる面も多く、普及啓発の媒体として活用できると思われる。
- ・映画上映会の参加者に新聞記事についてアンケートを実施した結果、半数が記事を読んでおり、読んだ感想では参考になったと答えた人が多かったものの、がんに関心のない人には記事が読まれないということが予測される。また、新聞を読まない人への啓発活動には、テレビ・ラジオ・インターネット等新聞以外のメディアの活用方法を検討することが必要である。

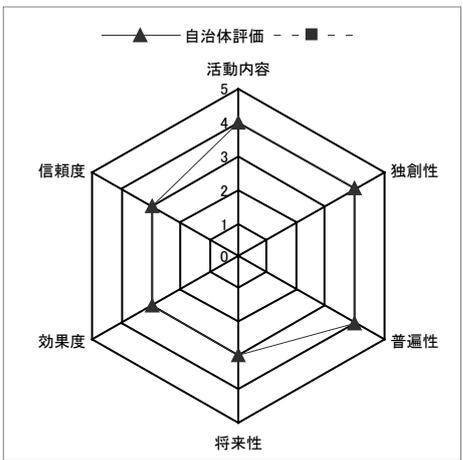
今後の課題

がん検診の普及啓発は、幅広い年齢層のがん検診対象へ趣旨が伝わるような効果的な企画や広報媒体を活用する必要がある。

本事業は新聞を活用した事業展開を行ったが、新聞を読まない人への広報媒体を検討するとともに、様々な事業と連携しながら広報機会を増やしていく必要がある。

ホームページ	平成 22 年度に総合的ながん対策についてHPに掲載予定のため準備中
照会先	群馬県 健康福祉部 保健予防課 生活習慣病対策係 027-226-2602

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4	県民に最も親しまれている地元新聞を活用し、県立病院の医師や地元出身タレントを起用した。
②独創性	4	既存の事業であるが、地元出身タレントと医師の座談会形式で注目度を高める構成内容である。
③普遍性	4	広く全国で実施が可能である。
④将来性	3	インターネット普及率が高く、ターゲットによって新聞以外のメディアの活用方法を検討する必要あり
⑤効果度	3	映画上映会参加者では、半数が記事を既読しており、効果はそれほど高くない。
⑥信頼度	3	がんに関心のない人への関心に留まったかという点での評価が出来ていない。



(3) 女性のがん健康支援事業

事業名	映画上映会
分野	■啓発活動 ■健康教育 □健康相談
事業費（千円）	2767

事業目的

がん検診の受診率の向上を図るためには、がんに関する正しい知識の普及が重要であり、家庭や地域において相互に学びあえる環境づくりを行うことが、今後のがん対策の推進に必要不可欠である。

県民のがんに関する関心を高め、がん検診受診意欲が高まるよう映画上映を開催する。また、県民が乳がんの早期発見ができるようがん検診の啓発とマンモのセルフチェックについての健康教育を実施する。

事業対象

一般県民

事業実施体制・展開

- ①新聞社を選定（県内最大発行部数である地方新聞社を活用）
- ②新聞社と委託契約をする。（委託内容は、新聞記事掲載と映画上映会開催を含む。）
- ③新聞記事掲載や映画上映会の日程や内容を決定する。
映画上映会を2月とする。映画上映会当日は、がん検診の普及啓発のため、検査機関や保険会社等、関係団体に協力を得て開催する。
- ④新聞紙上で、映画上映会の開催広告を行い、映画上映会参加を募る。（2回）
- ⑤映画上映会のチケット送付
定員（500名）を超えた場合には、抽選で入場チケットを送付する。
- ⑥映画上映会開催
上映映画：「Mayu-ココロの星―」（2007年製作）
参加者全員を対象にマンモセルフチェックのミニ講座を行う。また、会場前のホールにてパネル提示や乳がん触診モデルの体験コーナー、がん患者会の協力を得て患者会の紹介コーナーを設置する。
- ⑦映画上映会参加者の声を新聞紙上に掲載
映画上映会参加者にアンケートを実施し、アンケートの記載の中から一部新聞紙上に参加者の声として掲載する。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ①映画上映会の希望者と実績 映画上映会申込 1,028名（うち689名抽選）映画上映会参加者 359名／500名定員
アンケート結果より
- ②マンモセルフチェックの継続の意欲の変化
「乳がんセルフチェックしている」67/205名女性→「今後は定期的に実行できる」170/205名女性
- ③映画上映会後のがん検診希望者数 「今後はがん検診を受ける必要を感じた」 179/205名女性
- ④がんの早期発見（がん検診、マンモセルフチェック）の重要性に気付いた 133/252名
- ⑤映画上映会 満足度 「また映画上映会に参加したい」 221/252名

事業の工夫点

- ・映画上映だけではなく、乳がんセルフチェックのミニ講座、マンモの触診モデルやパネル展示など多角的にがんに関する知識の習得が出来るように企画した。
- ・上映会には、がん患者の方や、不安を抱えている方、がん手術後のショックから立ち直ろうとしている方等もいるので、がん患者会の協力を得て相談ブースを設置し、県内のがん患者会の情報提供を行った。
- ・新聞記事掲載と映画上映会を組み合わせることで、連続して、一貫したがん検診普及啓発の情報を発信できるようにした。

事業の効果についての評価・考察

企画調査委員会において本事業の効果について検討した。

- ・参加者のアンケート結果から、「映画上映会の参加は気軽に参加できるものであり、参加者はがんに関する関心を深め、がん検診の重要性を感じる事ができた」という回答が多く、がん検診の必要性を促すため映画上映会は大変効果的な事業であったと思われる。また、映画内容は事実に基づくストーリーで参加者の心に強い印象を与えたばかりではなく、家族や周りの人へ映画上映会での知見を伝えたいと回答した者も多く、がん予防の普及啓発といった波及効果も期待できるものであった。
- ・今回参加者は、30～50代の女性のがん検診の対象となる層が多く参加しており、また職業別でも主婦が多かったため、今後受診率を上げていく必要のある対象の人に多く参加してもらえた企画であったと思われる。
また、男性の参加者も多く、女性だけでなく、家族で検診について考える機会になったのではないかと。
- ・上映会にて、事前に広報として新聞掲載した資料を使って、乳がんセルフチェック等を実施したが、新聞記事については、「事前に読んだ」と回答した人が約50%であったが、上映会後「その新聞記事が役立つ」と回答した人は77%であった。上映会と連動して、再度新聞記事を活用することで、広報媒体としての効果が高まったと思われる。

今後の課題

- ・今回の開催場所は、県内1か所で1回の開催であった。幅広く県民にがん予防に関する普及啓発を行えるよう、企業や、特に若年層等については教育委員会や大学等と協力しながら実施できるよう、検討する必要がある。
- ・がん検診受診率が向上しているか等も今後評価していく必要がある。

ホームページ	平成22年度に総合的ながん対策についてHPに掲載予定のため準備中
照会先	群馬県 健康福祉部 保健予防課 生活習慣病対策係 027-226-2602

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	5	乳がんに関する映画上映は、参加者にとって気軽に参加しやすいものである。
②独創性	5	映画上映だけでなく、新聞掲載との組み合わせで、県民のがんへの関心を高めている。
③普遍性	4	広く全国で実施が可能である。
④将来性	3	映画の選定に配慮が必要であるが、開催地域を変えての継続実施は可能である。
⑤効果度	5	実話に基づくストーリーとなっており、参加者の心に深く訴えることが出来た。
⑥信頼度	4	参加者のアンケートは回収率も高く、参加者の声の分かる事業効果度は高い。

